

# ケシンプタ®皮下注20mgペンの投与方法

ケシンプタは、ペン型デバイスを用いて皮下投与する多発性硬化症治療薬です。  
ケシンプタを正しく投与していただくためにも、下記の記載事項をご熟読ください。

## ● ペンの各部位の名称と保存方法



### ⚠ ケシンプタ保存時の注意事項

- 箱に入れたまま、冷所保存 (2~8℃) してください。
- 凍結させないでください (冷凍庫に入れないでください)。
- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。

冷所保存 (2~8℃)



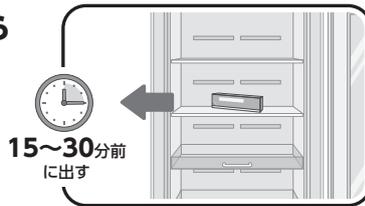
## ● ケシンプタの投与スケジュール



## ● STEP 1 投与の前に「準備」する

### 1 箱を冷所(2~8℃)から出して室温に戻す

投与する15~30分前に、ペンが入った箱を冷所から出し、箱のまま室温に戻します。



### 2 薬液とペンの状態を確認する



### ⚠ 下記の場合は、ペンを使用しないでください

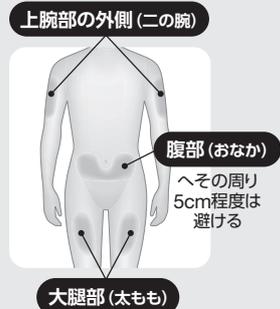
- 薬液が本薬の性状 (無色~微褐色の澄明またはわずかに混濁した液) と異なる場合
- 薬液に異物 (粒、塊 など) が混ざっている場合 (薬液中に気泡が見える場合がありますが、問題ありません)
- ペンの使用期限 (外箱に表示) が過ぎている場合
- ペンが破損している場合

### 3 投与する部位を選ぶ

投与できる部位は、「腹部」、「大腿部」、「上腕部の外側」の3つです。

### ⚠ 注意

- 投与部位は毎回変更してください。(前回の投与部位から3cm以上離れた場所に投与すること)
- 「腹部」の場合は、へその周り5cm程度は避けて投与してください。
- 「上腕部の外側」の場合、皮下脂肪が少ない場合は他の部位への投与を検討してください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷あとがある部位、硬くなっている部位には投与しないでください。



## ● STEP 2 ケシンプタを「投与」する

こちらでは「腹部」に皮下投与する場合の投与方法を示しますが、他の部位でも同様です

### 1 投与部位\*を消毒する

投与部位とその周囲を広めに、アルコール消毒綿で消毒します (消毒後は投与部位に触れないこと)。

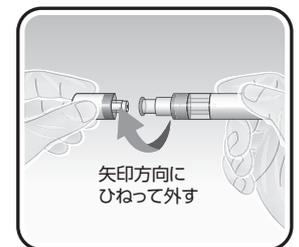
\*: 腹部 (へその周り5cm程度は避ける) または大腿部または上腕部の外側



### 2 キャップをひねって外す

### ⚠ 注意

- キャップには、乾燥天然ゴム(ラテックス)が含まれているため、ラテックスに過敏な患者さんにはご注意ください。
- キャップを外したらすぐに投与してください。外したキャップは直ちに廃棄してください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。

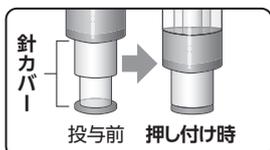
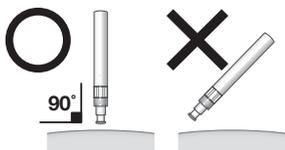


## ● STEP 2 ケシンプタを「投与」する

こちらでは「腹部」に皮下投与する場合の投与方法を示しますが、他の部位でも同様です

### 3 ペンを投与部位にしっかり押し付けて、薬液注入開始

ペンを投与部位に直角にしっかり押し付けると、「カチッ」と音がして薬液の注入が開始されますので、ペンは押し付けたままにしてください。すると、薬液確認窓から見える緑色の「確認バー」が動き始めます。



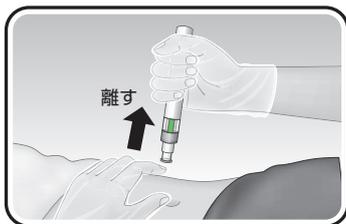
### 4 再度「カチッ」と音がして、緑色の「確認バー」の動きが止まったら、薬液注入完了

最初に「カチッ」と音がしてから3~4秒程度経過すると、今度は薬液注入完了の目安として、2回目の「カチッ」という音がします。2回目の「カチッ」という音がしても、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がって動きが止まるまで、ペンを投与部位から離さないでください。



### 5 ペンを投与部位から離す

緑色の「確認バー」の動きが止まったら、ペンを投与部位から離してください。なお、投与部位に少量の出血がみられる場合は、新しいアルコール消毒綿で投与部位を揉まずに10秒間押さえてください（必要に応じて絆創膏を使用）。



### 6 投与後の使用済みのペンとキャップを廃棄する

使用済みのペンとキャップは、直ちに、各医療施設のルールに従って、「医療廃棄物」として適切に廃棄してください（キャップは、ペンにはめないこと）。なお、ペンは再使用できません。

これで投与完了です

## ● よくある質問 Q&A

Q. 投与する前にペンを落としたりなどして、緑色の「確認バー」が動き始めてしまいました。どうしたらよいですか？

A. そのペンは使用せず、新たなペンを準備し、手順に従って投与してください。

Q. ペンを投与部位に押し付けても、薬液の注入が始まりません。どうしたらよいですか？

A. ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは投与部位に対して直角に当て、しっかり押し付けてください。腹部に投与する場合、皮膚が柔らか過ぎて、針カバーを押し込めない場合もありますので、必要に応じて皮膚を軽くつまんで投与部位を固定してください。それでも薬液の注入が始まらない場合は、ペンが破損しているおそれがあります。

Q. 注入が早い時と遅い時がありますが、問題ありませんか？

A. 問題ありません。緑色の「確認バー」が、下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了しています。普段よりも注入時間が長いと感じられる場合にも、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まるまで、ペンを押し付けたまま固定してください。

Q. 注入完了時に「カチッ」という音が聞こえませんでした。問題ありませんか？

A. 「カチッ」という音が聞こえなかった時は、緑色の「確認バー」の動きで、注入が完了しているかどうかを確認することができます。緑色の「確認バー」が下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了していますので、問題ありません。

Q. ペンの薬液注入中、緑色の「確認バー」が下まで完全に下がる前に、ペンを途中で抜いてしまいました。どうしたらよいですか？

A. この場合、規定の投与量がすべて注入されなかったおそれがあります。ペンを途中で抜くことがないように、投与の際には十分にご注意ください。なお、途中で抜いてしまったペンは再使用できませんので、廃棄してください。残っている薬液が排出されるおそれがありますので、廃棄時は取り扱いにご注意ください。